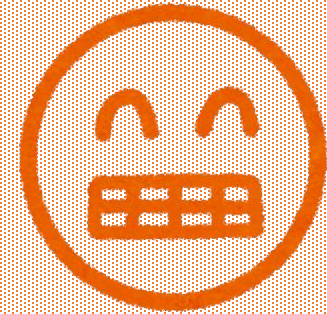


六郷助けあいプラットフォーム

話し合いの場



平成30年11月6日（火）

本日のタイムスケジュール

時間	内容
18：30	前回の話し合いのふりかえり
18：40	グループワーク説明（2グループに席替え）
19：30	休憩
19：35	お知らせコーナー
19：45	グループワークの続き
20：15	話し合いのまとめ
20：25	次回勉強会のお知らせ
20：30	終了

六郷助けあいプラットフォームの趣旨

六郷地域で活動する団体（者）どうしの顔の見える関係づくり、そして地域の福祉課題を解決するために連携が取りやすい環境（土台）をつくるのが目的です。

そのため、地域のニーズや実態把握、必要なことを議論する「話し合いの場」と活動において必要な知識を深めるための「勉強会」を実施し、団体同士の課題等の認識や目的を共有します。

また、そのことによって把握できた「地域に足りない機能」や「手伝ってほしいこと」などを明確化することによって、「必要な取り組みの創出」や「人材の確保」をめざしていきます。



◆開催頻度・・・月1回程度

◆開催日・・・毎月第1火曜日の夜6時30分から

◆会場・・・六郷地域力センター4階会議室

◆対象者

六郷で福祉に関する活動などを行っている方で、子どもの課題解決にご関心のある方

◆今後の参加者

参加者の口コミで徐々にメンバーを増やしていく。

◆地域外の参加

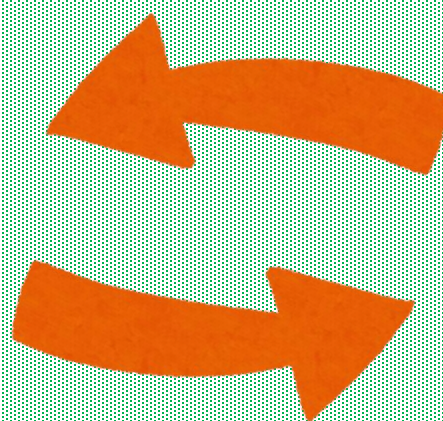
場合によってはゲスト扱いで参加や見学もありとする。

話し合いのルールについて

- ① 誰かを批判する発言や、その課題が誰のせいなのか追及しないようにしましょう。
- ② 必ず発言をしましょう。
- ③ お互いの活動の違いを理解しましょう。
- ④ この集まりで共有した課題や情報は、地域のために活用しましょう。

年間スケジュール（案）

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
話し合いの場 ＜ニーズ把握＞	○	○		○			○		○		○
勉強会 ＜インプット・ リソース把握＞			○		中止	○		○		○	



ホームページにてお知らせします！



コチラからホームページにアクセスしてください。

● 平成30年度

毎月第1火曜日の18時30分からおよそ2時間実施します。会場は、六郷特別出張所4階会議室です。

※下記日程と内容は、変更になる場合があります。その際は、このページでお知らせいたします。

実施日	実施内容	実施状況
5月8日(火) 18時30分～	平成29年度の報告会	参加者43名 資料(PDF)
5月8日(火) 19時15分～	話し合いの場	参加者45名 結果報告(PDF) 資料(PDF)
6月5日(火) 18時30分～	話し合いの場	
7月3日(火) 18時30分～	勉強会	
8月7日(火) 18時30分～	話し合いの場	
9月4日(火) 18時30分～	勉強会	

今後、こちらに会議の結果などを掲載していく予定です。





平成29年度の話し合いで明らかになったこと

見えてきた課題の本質

子ども

- 子どもの実際（コミュニケーション方法・遊びなど）がわからないことが多い。
- 「わからない」ということも地域の課題である。

支援者

「個人情報保護」は壁ではなく、「個人情報をどう使い、管理するのか」の情報が共有されていないことが不安につながっている。ただし、本人同意を得ることは容易ではない。

親・家庭

- 必要なのに相談できない人、孤立している人が相談できる仕組みが必要
- SOSが出せる地域づくりが必要

人材

- ライフスタイルが変わってきていることをとらえられていない。
- 手伝ってほしいことが明確にできていない。
- 今までのやり方を変えるのは大変である。

連携して取り組めること

- 支援者側がしっかりニーズを把握する。
- 支援者と支援されるの関係ではない交流の場、機会をつくる。
- いろんな側面の個人情報保護を勉強する。
- 助けあいのルールづくり
- 出来ないことを明確にした求人募集
- 知らない団体とももっと関わりを持つ

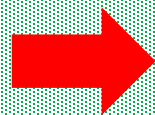
地域に足りない機能【募集掲示版】

- 子ども食堂や学習教室
⇒目的をきちんともったもの
- インターネットに関わるしくみ
- 親・子と地域が知り合える環境
- SNSやネットによる情報発信機能

六郷助けあいプラットフォームが必要な背景



時代の変化



人々の生活が変化

ライフスタイルの変化・多様化
インターネットの普及、店舗の
充実、家庭用電化製品の進化、
核家族化、単身世帯の増加

社会環境の変化

少子高齢、日本の人口減少



生活が便利になる一方で…

昔は当たり前だった助けあいが希薄化
し、サービスは、行政や企業から受け
るものという感覚が。。。
地域や人に対する関心が薄れている。

福祉課題の変化

子どもの貧困、ダブルケア、8050問題



丸ごと受け止める必要性

福祉の課題は複雑化し、一つの分野・団体だけでは解決は困難になってきた。
人口が減る中、福祉の人材不足も。サービスが今後担えるかが問題に。。

我が事が必要

このため、我が事・丸ごと「地域共生社会」づくりが必要

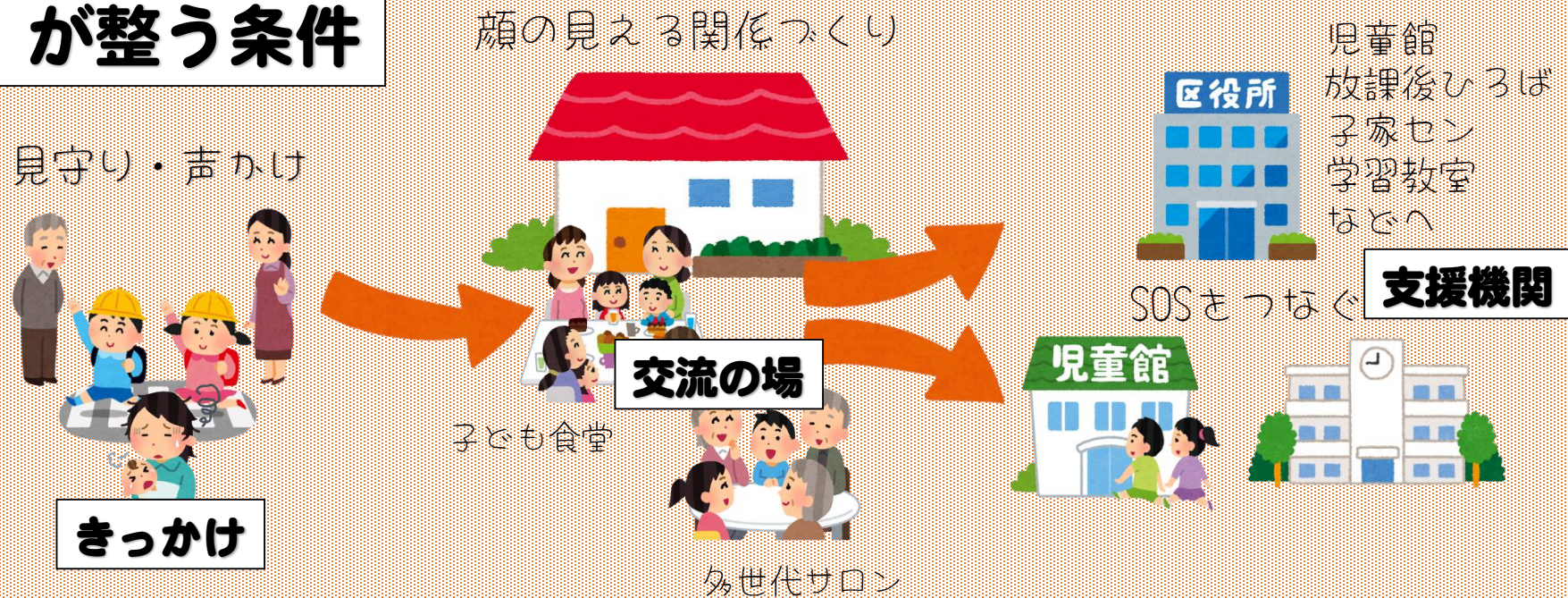
これまでの話し合い
でもココが肝!

①住民がSOSを出しやすい、発見しやすい“しくみ”

前回の話し合いで出た主なご意見・アイデア

- ほど良い関係で自然な感じで**名前と呼ぶ声かけ**←顔の見える関係に
- **気軽な雰囲気**の相談できる場が必要。
- 子どもSOSステッカーのしくみを形骸化しないしくみで（SOSが出しやすいように）作れないか。
- 一方SOSを発する難しさがある。

“しくみ”が整う条件



現代では、プライバシー空間（自宅）と、地域との交流の場がきちんと確保されたしくみが必要。

②地域活動に参加しやすい“しくみ”

前回の話し合いで出た主なご意見・アイデア

- 地域活動・町会活動を知ってもらうPRが必要
 - わかりやすく、**町会活動・地域活動のメリット**がわかる情報発信
 - 新しい住民、参加者を**受け入れるおもてなし**
- ⇒楽しいイベント企画（年代別で参加できる雰囲気、町会のクラブ活動化）
※ただし、“やらされ感”にならないように！

“しくみ”が整う条件



届く情報発信と受け入れの両方の整備が重要！

③まちに関心・愛着をもってもらう“しくみ”

前回の話し合いで出た主なご意見・アイデア

- 関係が出来ることで、まちに関心をもってもらえる。
- **子どもの意見**も聞く
- **まちの歴史**を伝える
- **まち探検イベント**（スタンプラリーでまちにチェックポイント）
- **達人サミット**（まちのいろんな詳しい人が教える）

“しくみ”が整う条件

地域の人と人とがつながり、関わりをもつことが重要

⇒我が事のまち意識へと

本日の話し合い（試行錯誤編）

グループA

「住民がSOSを出しやすい、発見しやすい“しくみ”」

①現状確認

「六郷における声かけ、見守り活動とは？」

②具体的な議論

「交流の場」を六郷につくるアイデア検討

ポイント

- どんな条件が揃えば実施できるか。
- 何が足りない・課題なのか（人材？資金？場所？）
- 地域に「交流の場」ができればどんな関わり方ができるか？

グループB

「地域活動に参加しやすい“しくみ”」

①現状確認

「現在の情報発信ツールとは？」

②具体的な議論

地域活動に関心のある方の発掘・育成企画の提案検討

ポイント

- 地域活動を始めたいと思っている新しい人材が参加しやすいしくみとは？
- グループ申込はどうか？
- どのような呼びかけ募集をするか。
- 受け入れ方の工夫など

次回は、**12月4日（火） 18時30分**から

勉強会：子どもの実態を知ろう

（テーマ）

「六郷の子どもたちの放課後を知る」

**講師：六郷の児童館、放課後子どもひろば
を行う予定です。**

どうぞよろしく願いいたします！